

トライアスロンって何だろう？

2015年5月16日(土)、神奈川県横浜市を舞台に、世界トライアスロンシリーズ横浜大会が開催されました。世界の一流選手が集まり、大さん橋ふ頭付近の横浜港をスイム、赤レンガ倉庫を通過して、みなとみらい方面までバイク、そして山下公園周辺を走りぬけるランコースが魅力的な大きな大会です。

トライアスロンとは、スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(走る)の3つの種目を連続して行う競技のことを言います。トライアスロンの語源は、スイム、バイク、ランの3種目を一度に連続して行うことから、ラテン語の「3」を意味する「トライ」と、競技・運動を意味する「アスロン」という2つの言葉を組み合わせ「トライアスロン」と呼ばれるようになったと言われています。

また、競技は、スイム↓バイク↓ランの順番で行われるのが一般的です。長距離のレースは過酷であるため、選手の疲労による安全度合いを考えて、危険度の高い順番で行うようになったそうです。

トライアスロンは、「パラトライアスロン」として障害者の参加カテゴリーが確立しているスポーツとしても知られています。パラトライアスロンの中の注目ポイントに、スイム、バイク、ランそれぞれの種目の間にある「トランジション」があります。トランジションとは、スイムからバイク、バイクからランへと、競技種目を変えることを言います。ここでの速さもタイムに大きく影響するため、パラトライアスロンの第4の種目と言われることもあります。



ハンドラーの支えを受けるパラアスリート 【撮影・佐藤里奈】

スイムが終わった後、人によってはハンドラーと呼ばれるお手伝いをしてくれる人の支えを受け、自分のバイクエリアへ移動します。移動したら自分の力でウエットスーツを脱ぎ、バイクを乗車エリアまで押して移動し、バイクに乗ります。バイクの競技が終わったら、またトランジションエリアに戻り、最後のランに入ります。

パラトライアスロンは、トライアスロンと違い、選手の影響が結果に与える影響を少なくするため、PT1からPT5のカテゴリーを設けて、障害によって参加するカテゴリーを変更しているのも特徴です。

【佐藤里奈】

こども記者紹介

佐藤 里奈
横浜市立永田小学校
5年



今回のこども記者を体験して、私はスポーツ選手のあきらめないという強い心にふれることができました。このことが、自分の成長につながるなと思いました。

また、横浜に住んでいる私にとって身近な場所である山下公園や中華街に、外国人などの観光客がたくさん集まって楽しそうにしている様子を見て、私達が大人になったらこの場所を守っていかねばならないんだなと思いました。

これからは、横浜のいいところをたくさん探していきたいと思いました。

【横浜市体育協会・吉山博之】



強い心を持った選手たち

世界トライアスロンシリーズ横浜大会当日、6時55分にパラトライアスロンのスタートが切られた。私はトランジションエリアでスイムから帰ってくる選手達をドキドキしながらカメラをかまえて待っていた。

「トライアスロンが終わり、完走した山田敦子選手、中山賢史朗選手、そして佐藤圭一選手にインタビューをするのができた。インタビューの中で、私は「パラトライアスロンは、とてもつらく大変だと思ってるけど、途中で逃げ出さないでどうやって乗り越えているのか」という質問をした。山田選手は「私の目が見えない分、ガイドさんが隣でいっぱい話しかけてくれて、励ましてくれる。それで頑張って乗り越えられるんだよ」と答えてくれた。中山選手は「他の選手もつらいのは一緒。同じ気持ちでやっていると考えると、自分も頑張ることができると答えてくれた。その答えを聞いて、私はみんな色々な考え方で「あきらめない」という気持ちを持ち続けているのだと思った。」

【佐藤里奈】

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコイメーキングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われま

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコイメーキングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

